

団体の垣根を越えて、地区を守る ～川西町大塚地区～



川西町大塚地区は、川西町の北部、置賜地域（米沢市、長井市、南陽市など3市5町）のほぼ中央に位置し、長井市と南陽市に隣接する地域です。そのため、大塚地区には、公立置賜総合病院が設営されており、毎日約2,000人が診察や勤務等で行き来しています。

大塚地区は川西町内でも人口が少ない地区であるものの、青パト活動が活発で、川西町内で活動する青パト79台のうち、17台を運用しています。所属する団体は、川西町防犯協会連合会のほか、米沢地区交通安全協会などさまざまですが、大塚地区の安全・安心のために、団体の垣根を越えて活動をしています。

社会情勢に即した啓発活動を推進し、住民の不安感を払拭

私たちの地区では、例年、夏に5つの夏祭りを開催しており、それに合わせて少年非行防止を目的とした夜回り活動や声かけ活動を実施してきました。しかし、昨今、新型コロナウイルスが猛威を振るっていることから、それらのお祭りが2年連続で中止となり、また、それに伴うパトロール等の活動の機会も減少し、防犯意識の低下も危惧されていました。そこで、地区での大きな事件の発生や不審者の出没等はないものの、地区の住民も不安な気持ちを抱えているのではないかと、さまざまな事件や事故を未然に防ぐにはどうしたらよいかなど、大塚地区に住む青パト従事者が知恵を絞り、協力して活動することにしました。

ちょうどそのころ、千葉県内の通学路で飲酒運転のドライバーにより、幼い命が奪われた交通死亡事故が発生したところであり、地区内でも通学路における子どもの安全対策や飲酒運転の防止への関心が高まっていました。そこで、地区内のさまざま団体から参加をしてもらい、通学路等を青パトでパトロールをしながら、地区内にある酒類提供飲食店を巡回し、飲酒運転の防止を呼びかけることにしました。タイムリーな活動を行ったことで、地区の住民には、青パトの光が安全・安心の光となる活動となったと思います。



防犯も交通も安全で安心な地区を築いていきたい気持ちは変わりません。これからも、地域一丸となって日本一安全で安心な大塚地区を目指し、青パトを最大限に活用して各種事件や事故を起こさせない地域づくりをしていきます。

（文～大塚地区防犯協会 会長 鈴木周市）

【編集後記】川西町大塚地区防犯協会から寄稿いただきました。この度、青パトの証明書記載事項変更申請を通じて、大塚地区防犯協会鈴木周市会長が川西町防犯協会連合会の会長に就任されたことを承知しました。今後のご活躍をご祈念いたします。

【山形県内の青パト情勢】
（令和3年9月末現在）
175団体 6,212名
青パト台数 2,296台